

これからの
エゾシカ有効活用について

会報・ホームページ委員 小田 麻紀

48億円・前年比1億2千万円増

この数字が何を示しているかご存じですか？

北海道内をドライブ中に、エゾシカを見たという人は少なくないのではないでしょうか？特に、豊かな自然に恵まれた道東での遭遇率は高く、大きな群れや、親子の群れなどに出会うことがあります。野生動物を近くで目の当たりにできることは大変すばらしいことですし、貴重な経験にもなり得ます。しかし、良いことばかりではないということは、皆さんも多かれ少なかれご存じではないでしょうか。



今回は、今までは害獣と言われていたエゾシカの有効活用について、実際にエゾシカを利用して、犬用ジャーキーや鹿革製品、その他商品の開発を行い、最終的には「鹿の全てを有効活用し、捨てる部分をなくしたい」との目標を掲げている、合同会社松豆・小松智香代表に今回の記事作成に協力していただきました。



農林水産省のデータによると、野生鳥獣による被害金額が48億7千万円（2018年度）で、前年度（2017年）より1億2千万円増ほど増加しています。その中の38億6千万円（前年39億3千万円）がエゾシカによるもので、全体の約8割にあたります。被害の具体的な内容としては、農作物の食い荒らしや踏みつけ、森林での樹皮の食害や角研ぎ害などです。

最近では市街地での出没がニュースになっていましたが、農林水産業被害に加えて列車支障発生（2,575件）、交通事故（3,188件）、生態系への影響など人間社会への影響が深刻な問題となっています。

また、2018年11月20日に恵庭市において、森林管理業務中の職員をエゾシカと見誤って発砲し、死亡させるという事故が発生しました。この事故を受け、シーズン中であっても狩猟禁止という措置を取ることになりました。

白い斑点やつぶらな瞳が可愛いイメージの鹿ですが、繁殖能力が高く、我々の想像を絶するスピードで繁殖します。2歳になった雌の妊娠率は90%以上で、2歳から寿命（約15年）まで毎年出産し、放置すれば年20%の割合で増え続け、4～5年で2倍になる計算です。

2018年には生息数が推定66万頭とされていました。これを保護管理数値の個体数として維持する為には、毎年、年間13万頭の捕獲・狩猟を行っていかねば、生息数の増加が続き、生息分布域も広がり続け、人間社会や自然環境への影響がますます深刻化するとされています。

しかしながら、今までは単なる駆除対象の害獣とみなされていたエゾシカが、2014年に北海道エゾシカ対策推進条例（捕獲等による個体数の管理、捕獲個体の有効活用推進）が制定され、エゾシカの有効活用にも焦点が当てられるようになりました。北海道の大切な資源として、捨てるどころ無く有効活用できれば、エゾシカを持続可能な自然資源として、被害から利益に変えることができるかもしれません。

特別企画 バックナンバーはコチラ



エゾシカを「大切な資源」と考え有効活用する

食べる

ここ数年で、鹿肉がジビエとして飲食店などで提供される機会が増え、スーパーマーケットなどでも販売されているのを見かけることも多くなりました。牛や豚・鳥などの他の一般的に食されている食肉と同様に、カレーやカツ・ステーキや唐揚げなど様々な料理に使用することが可能で、味も良く、自然の中で育ったエゾシカ肉は低脂肪の赤身肉、高タンパクです。ミネラルや鉄分豊富で脂肪分も非常に少なく、ヘルシーな肉として多方面から注目されています。

また、鹿肉がヘルシーであるという認識から、ペット用のフードやおやつとしても近年人気が高まりました。さらには、肉の部分以外に角や骨などの今までは廃棄されていた部分についても、加工することにより、ペット用のおやつやおもちゃとして、新たな価値を生み出すことができるようになりました。これらのエゾシカ肉は北海道の自然豊かな森で育った100%天然の食材として出荷されています。



▲犬のおやつとして加工された鹿肉

▼犬のおやつ

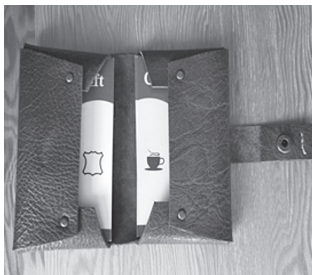


▲鹿肉を乾燥させたもの (ジャーキーになる前)

作る
使う

鹿革は軽くて柔らかく、通気性がよく、キメが細かく、しっとりとした手触りで、レザーのカシミアとも言われています。鹿革は柔らかく加工のしやすさから、日本では牛革よりも古くから身近なものとして使われています。古代から江戸時代までは、革足袋や鎧、兜などの武具、蹴鞠、小物用袋など様々な物に使われていました。現在でも、衣料用品や靴、バッグ、小物、剣道や弓道用品など、変化する時代に合わせて革製品のデザインが変わったとしても、鹿革の良さが伝わる物づくりは現在においても脈々と受け継がれています。

鹿革は1頭の鹿から得られる革の量が他の革素材と比べると少なく、そのため希少性が高く付加価値の高い「資源」と言えます。



▲鹿革で作った名刺入れ



◀鹿革で作ったスリッパ

なめ
▼鞣した鹿革



鹿革で作った
ゴルフクラブの
ヘッドカバー



見る 学ぶ

私たちの身近な野生動物であるエゾシカに注目することで、北海道の自然の大切さ、そこに生息する野生動物の現状、産業のこと、人間社会のあり方など考えさせられることがたくさんあります。そんな中でも色々な問題を解決する為に行動を起こして活動している方々がたくさんいます。それぞれやり方やフィールドは違っても目指す方向は同じです。どんな北海道がいいか、どんな暮らしがいいのか、一人一人が考えてできることから行動に移していくことが重要です。

北海道の大切な資源としてのエゾシカの全てを、無駄なく有効活用できて初めて大自然の「豊かさ」を実感し、感謝し、守っていけるのではないのでしょうか。

【おわりに】

「野生動物のためにこんなに税金が使われています」と聞いて衝撃を受けたり、新聞やニュースで鹿による獣害について報じられて「大変そうだな」と思うこともあります。しかし、日常生活に戻ればそのような思いはすぐに忘れてしまいます。ですが、市街地に鹿が現れ、車と衝突したり轢かれたりすることを見過ごすことはできません。鹿には鹿の棲むべき場所があったはずなのに、私たちの目に触れる機会が増えたのは、その原因を私たち自身が作ってしまったからかもしれません。



みなさんの中にも、仕事やプライベートで道東を訪れる機会があった方も多いことでしょう。自然の豊かさや美しさに感動したり、目的地までの距離が長く、北海道が想像以上に大きいということを再認識したり、仲睦まじい姿を見せる鹿の親子を目にすると可愛いと声を上げ感激したりと、さまざまな驚きや発見があったのではないのでしょうか。

しかし、その一方で、市街地や農村に出没し町や畑を荒らす“迷惑な鹿”という存在があり、社会問題となっているということも事実ですし、目を背けてはいけない現実です。何とかしなくてはならないけれど、今までは、ハンターが鹿を駆除して捨てることでしか処理できなかったことも事実です。

合同会社松豆の小松代表は、「そのような現実を知り、何とも言葉には言い表せない気持ちになったことがきっかけで、この“迷惑な鹿”を何か役に立つことに転換することができないか」と考えました。それを実行に移すということは、容易なことではないですし、たくさんの苦難を乗り越えてこられたのだと思います。



北海道が抱える大きな問題の解決を、自分自身で行おうと行動に移そうとするその行動力は素晴らしいと感じました。

このように、エゾシカという割と身近なテーマから、私たちが住む北海道の環境のことを考えるきっかけになれば素敵なことだと思います。近年、全国的に問題になっている獣害ですが、抜本的な解決がなされている地域はほんの少しです。エゾシカについての利活用モデルを確立できれば、強力な北海道ブランドになり得ると同時に、本当の意味での豊かさを後々に継承していくことができる可能性を秘めていると感じました。



合同会社松豆・小松智香様に会社を設立した時の思いや、今後の方針についてお聞きしました。

自分たちが飼っている犬がきっかけで、犬に関わることを仕事にしたいと思い、会社を設立しました。飼い犬が食物アレルギーで、食べさせる物にとっても苦労していた時、犬の体に良い食べ物に鹿だと教えてもらいました。頂いたエゾシカの生肉を、飼い犬に与えると、あっという間に完食してしまいました。その姿を見て、他にも欲しい人がいるかもしれないと思い、具体的に事業をスタートさせました。おかげさまで、現在は、熱意を持ってエゾシカに関わるたくさんの方と出会い、仕事を進めています。

今後は、ペット用ジャーキーに加えて人間用のジャーキー、革製品、副産物等の商品化、全国への販路拡大を目指し、エゾシカを北海道の資源としてブランド化できるよう、関わっている方々と協力しながら頑張っていきたいと思っています。

会社概要

社名：合同会社松豆(まつまめ)
 設立：2016年9月1日
 代表社員：小松智香
 資本金：200万円
 所在地：〒065-0019
 札幌市東区
 北19条東8丁目2-8
 電話番号：011-838-8747
 事業内容：ペットフード開発・販売、
 鹿革製品開発・販売
 NPOエゾシカ利活用協議会所属